



令和8年度

水稻の生育概況 vol.3



埼玉県マスコット

「コバトン」

(令和8年8月4日現在)

埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：7月の平均気温は平年差 $+1.6^{\circ}\text{C}$ と高く、降水量は平年比133%と多く、日照時間は平年比111%で平年並であった。

◎生育状況：早期、早植栽培の生育は平年並で、出穂期は平年よりやや早くなっている。普通期栽培の生育は平年並である。

◎今後取るべき技術対策

- ・水 管 理：出穂前後1週間は深水管理とし、その後は間断かん水を行う。
玄米の品質低下を避けるため、落水は出穂後30日以降に行う。
- ・穂 肥：出穂10日～15日前に葉色を再度確認し、葉色が低下していたら追肥を実施する。
- ・病虫害防除：斑点米カメムシ類に対する防除対策を徹底する。
- ・適 期 収 穫：高温登熟により刈取適期が早まると予想される。刈り遅れると胴割粒の発生が増加することから、早めの収穫開始を心掛ける。

1 気象の概況

7月の平均気温は、第1半旬を除いて平年並から平年を上回って経過し、月平均では平年差 $+1.6^{\circ}\text{C}$ と高かった。降水量は台風と台風に刺激された梅雨前線の影響で、7月2、16、17日にそれぞれ日合計で32.5、52.5、114.5mmのまとまった降雨があり、月全体では平年比133%と多かった。日照時間は、寡照であった第1半旬を除いて平年並から平年を上回って経過し、月合計は平年比111%と平年並であった。

7月20日に発表された気象庁の速報値によると、関東甲信の梅雨明けは7月20日頃となり、平年より1日遅かった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

7月第3半旬以降の高温により葉位の進展や幼穂の伸長が早まり、出穂期は平年より4日早く、主稈総葉数はおおむね平年並となった。出穂期調査では茎数は依然平年を上回って推移し、平年比106%となった。一方、草丈は、6月第5半旬から7月第2半旬までの平均気温が平年並から下回って経過したため、その後は高温で推移したものの、平年比97%となった。

イ 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

7月第3半旬以降、高温に経過したため、生育は旺盛となり、移植後70日調査において、草丈は平年比106%、茎数は104%、葉位は平年差+0.2となった。葉色は淡く推移し、穂肥施用後もその傾向が続いている。移植後70日時点の幼穂長は2.4cm（平年値：2.2cm）、稈長は15.8cm（平年値：13.1cm）と平年をやや上回っている。気象庁が7月30日に発表した関東甲信地方の向こう1か月予報の気温は平年並から高い見込みから、出穂期は平年（8月12日）並かやや早まると予想される。

ウ 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

移植後から7月の第2半旬までの平均気温は平年並から下回って経過していたものの、以降は高温に経過したため、移植後30日調査では、草丈は平年比108%、茎数は平年比105%と平年を上回った。葉位は平年並となった。今後、平均気温は平年並から高い見込みのため、出穂期は平年（8月16日）並かやや早まると予想される。

（2）県内全般

梅雨の影響を受け緩慢だった生育は、7月中旬以降の高温や日照時間の確保により順調になっている。早期栽培、早植栽培の出穂期は、平年より2日程度早まっているが、空梅雨傾向であった昨年ほど早まっていない。普通期栽培の生育は、ほぼ平年並となっている。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が7月30日に発表した関東甲信地方の1か月予報では、暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高い確率が50%となっている。降水量、日照時間とも平年並の見込みである。

また、7月21日に発表した3か月予報では、9月の天気は数日周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並の確率が40%である。

（2）生育予測

ア 早期、早植栽培

早期、早植栽培の登熟は全般的に早まると予想され、登熟期間の短縮に伴い、収穫時期も早まることが見込まれる。

熊谷気象台の日平均気温は7月10日以降断続的に27℃を超えており、今後も気温が高いと見込まれるため、白未熟粒などの高温障害の発生が懸念される。

イ 普通期栽培

生育は順調に推移すると見込まれる。出穂期は平年並～やや早まると予想される。9月の天気は平年同様曇りや雨の日が多いと予測されているため、遅い作付けで登熟期に天候不順に見舞われた場合には、作柄が不安定になるおそれがある。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期、早植栽培

ア 水管理

高温障害の発生が懸念されることから水管理に留意する。出穂前後 1 週間は深水管理とする。その後は 3～4 日間隔で湛水と落水を繰り返す間断かん水とし、根の活力維持を図る。特に、梅雨の影響で中干しが不完全なほ場では、落水期間を長めにとり地耐力の向上に努める。

玄米品質の低下を招くため、落水は基本出穂後 30 日以降とし、その後も高温が継続する場合は、走り水程度にかん水する。

台風接近時には深水管理とし、台風通過後のフェーン風が収まったら通常の水管理とする。

イ 追肥

穂肥適期以降(出穂 10～15 日前)に葉色が著しく低下しているほ場では、窒素成分で 1～2 kg/10 a 程度の追肥を行い、高温障害の軽減を図る。

ウ 病虫害防除

斑点米カメムシ類の発生が多く、7 月 29 日には病虫害発生予察注意報が発表されている。多発すると収量・品質に被害を及ぼすことから、出穂期前後 2 週間は、ほ場周辺の除草作業を避ける。また、出穂期以降、ほ場をよく観察し、必要に応じて薬剤による防除を徹底する。

イネカメムシに対しては、計 2 回薬剤防除を行う。防除適期は、1 回目は不稔対策として出穂期から穂揃期、2 回目は斑点米対策として出穂期の 8～14 日後である。イネカメムシは移動性が大きいので広域で共同防除を行うことが望ましい。

エ 雑草防除

高温の影響から後発の雑草が散見される。クサネムなどの大型種子は玄米調製時に選別しにくく、製品に混入すると農産物検査で格落ちの原因となるため収穫前にほ場の株を取り除く。

また、特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」が県内で発生している。水田内や畦畔に定着すると防除が困難となるため、ほ場の水口周辺を重点に観察し、早期発見と早期防除を心掛ける。

オ 収穫作業

登熟期間が高温で経過していることから収穫開始が早まると予想される。コンバインや乾燥機の点検・準備を早めに行う。

刈り遅れは着色粒や胴割粒の発生を助長し、外観品質や食味を著しく低下させるため、登熟積算気温を目安に、立毛籾水分が 25%に低下したら速やかに刈取を始める。高温登熟年は籾の黄化よりも玄米の成熟が早まることから、帯緑色籾割合が多少高くても早めに刈り始めるよう心がける。

農業技術研究センターが公開している農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」を活用し、刈取適期の目安を把握するとよい。

(2) 普通期栽培

ア 水管理

出穂前後各1週間は深水管理とする。その後は、間断かん水を行い、根の活力維持と地耐力の向上に努める。台風接近時には深水管理とし、台風通過後のフェーン風が収まったら通常の水管理とする。かけ流しかん水は用水の不足を招き、高温障害を助長するおそれがあるので絶対に行わない。

作付けが遅い場合、秋季の天候不順による登熟不足が発生するおそれがあるため、莖数を増やしすぎないように、中干しや間断かん水を徹底する。

イ 追肥

穂肥適期以降（出穂10～15日前）に、葉色が著しく低下しているほ場では、窒素成分で1～2kg/10a程度の追肥を行い、高温障害の軽減を図る。

一発肥料を使用している場合、高温年には溶出が早まり、通常の穂肥施用時期以降に穂肥分が溶出して葉色が濃くなることはない（中干後の地力窒素発現を除く）ため、追肥を積極的に施用する。

ウ 病害虫防除

早期、早植栽培地域と同様に斑点米カメムシへの注意が必要である。ほ場周辺の除草は出穂2週間前までに行い、斑点米カメムシ類のほ場内への侵入を防ぐ。イネカメムシに対しては、早期、早植栽培に準じて出穂期の防除を行うが、出穂前でも多発している場合には速やかに防除を行う。

いもち病の常発地では、高温年でもいもち病が発生するため、葉いもちの発生が見られたほ場では、穂ばらみ期から穂揃い期に穂いもちの防除を行う。

紋枯病の発生が多いほ場では、穂ばらみ期から出穂期に防除を心がける。

エ 雑草防除

クサネムなどの雑草種子は調製で除去しにくく、製品に混入すると農産物検査で格落ちの要因となるので収穫前にほ場の株を取り除く。

◆ 農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」 ◆

画面上で

①最寄りのアメダス地点選択

②対象作物と品種

③播種・移植日等

を入力して送信すると

予測結果が画面上に表示されます！



「咲き玉くん」二次元コード

アプリの利用は無料ですが、通常の通信料は利用者の負担となります。予測結果の向上に努めていますが急激な気象変化や栽培管理等によって前後する可能性があり正確性を保証するものではありません。本プログラムの利用により、農作物生産に何らかの支障が出た場合、経済的補償等の責任を負うことはできません。

「咲き玉くん」URL

https://script.google.com/macros/s/AKfycbx7qmIlyG5hiLBBBmOsgdVqWqzTKJUdr7Ijq7ZbbUsXEDbDS08g_ux8WZB64pk4X47D/exec

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	23.0	24.6	26.4	29.2	20.7	21.0	42.5	27.8	3.5	19.8
2	25.2	25.2	30.1	30.0	21.2	21.5	1.5	29.8	29.4	20.9
3	28.7	25.7	33.3	30.6	24.9	22.0	0.5	28.7	25.5	22.5
4	28.9	26.2	34.2	31.1	25.1	22.4	179.0	26.6	24.0	24.1
5	31.4	26.7	37.8	31.7	27.2	22.9	0.5	25.0	45.7	25.7
6	28.3	27.3	33.0	32.6	24.5	23.4	2.0	27.6	33.3	33.9
平均	27.6	26.0	32.5	30.9	23.9	22.3	合計 226.0	169.8	161.4	146.0

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。
平年値は 1991～2020 年の気象台値。

2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
70	80.6	84.2	96	30.8	28.5	108	12.6	12.2	0.4	1080.1	1025.6	105
出穂期	105.9	109.0	97	24.8	23.3	106	13.3	13.2	0.1	1654.1	1662.4	99

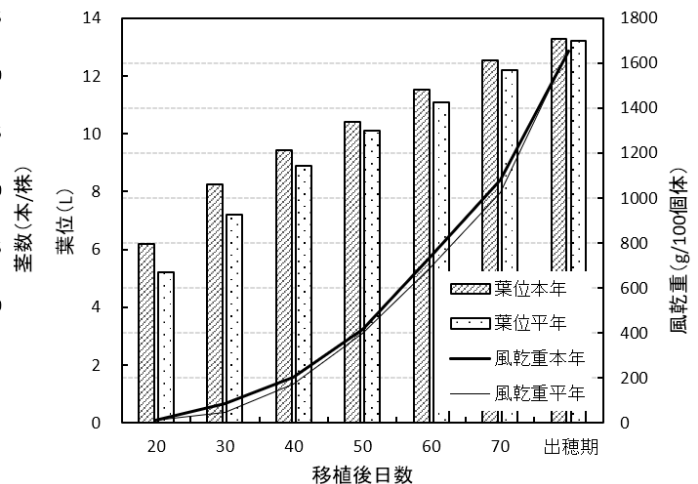
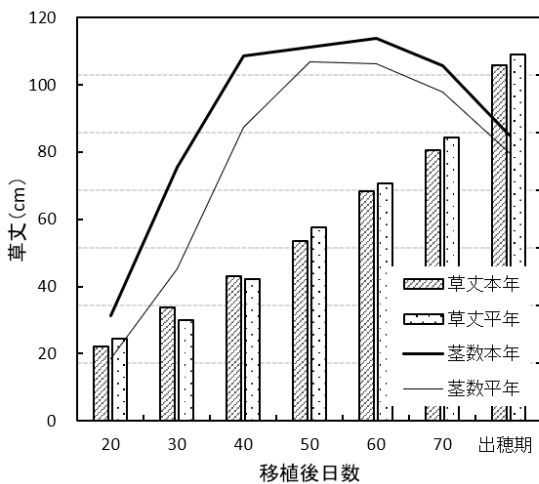
注) 平年値は平成11年～令和7年の平均(平成22年を除く)。 平年比は%

（2）出穂

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/19	7/20	-1	7/21	7/25	-4	7/23	7/28	-5

注) 平年値は平成11年～令和7年の平均(平成22年を除く)。

（3）生育経過



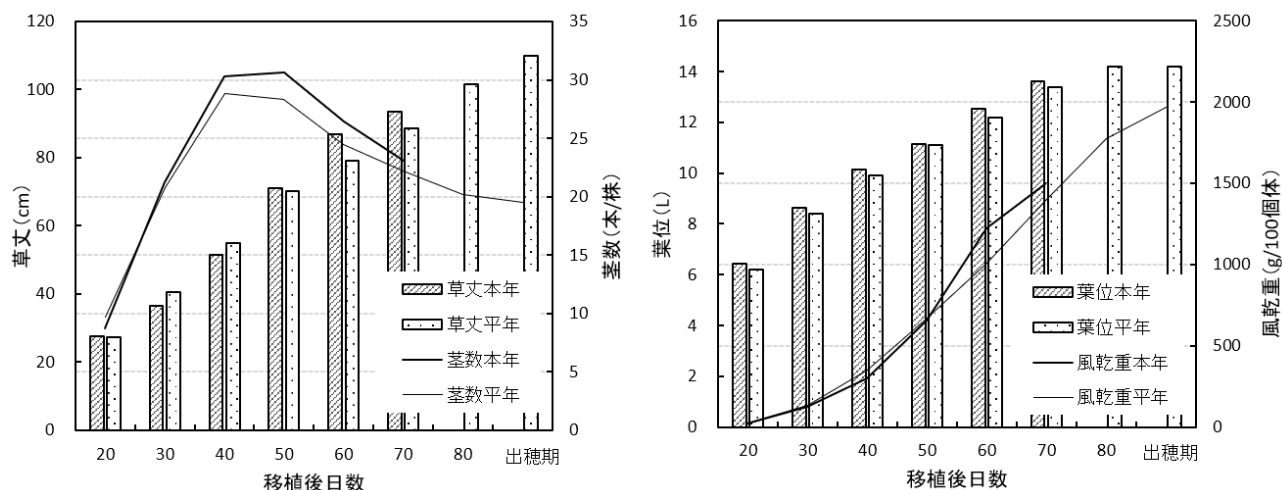
3 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
50	71.2	70.2	101	30.6	28.3	108	11.1	11.1	0.0	656.0	669.8	98
60	87.0	79.0	110	26.4	24.5	108	12.6	12.2	0.4	1219.6	1008.0	121
70	93.6	88.5	106	23.1	22.2	104	13.6	13.4	0.2	1501.2	1398.5	107

注) 平年値は平成12年～令和7年の平均。 平年比は%

（2）生育経過



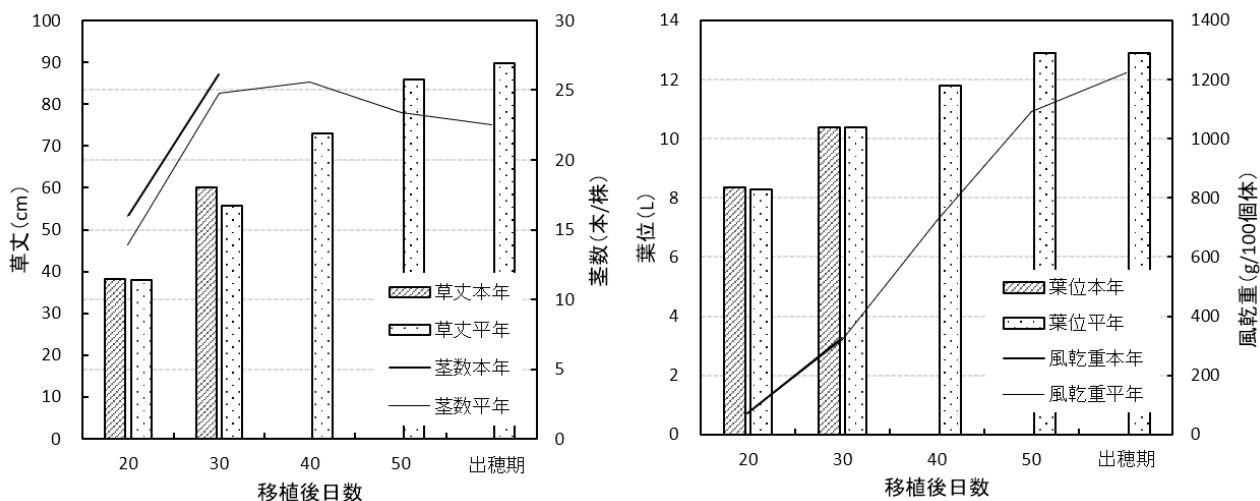
4 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

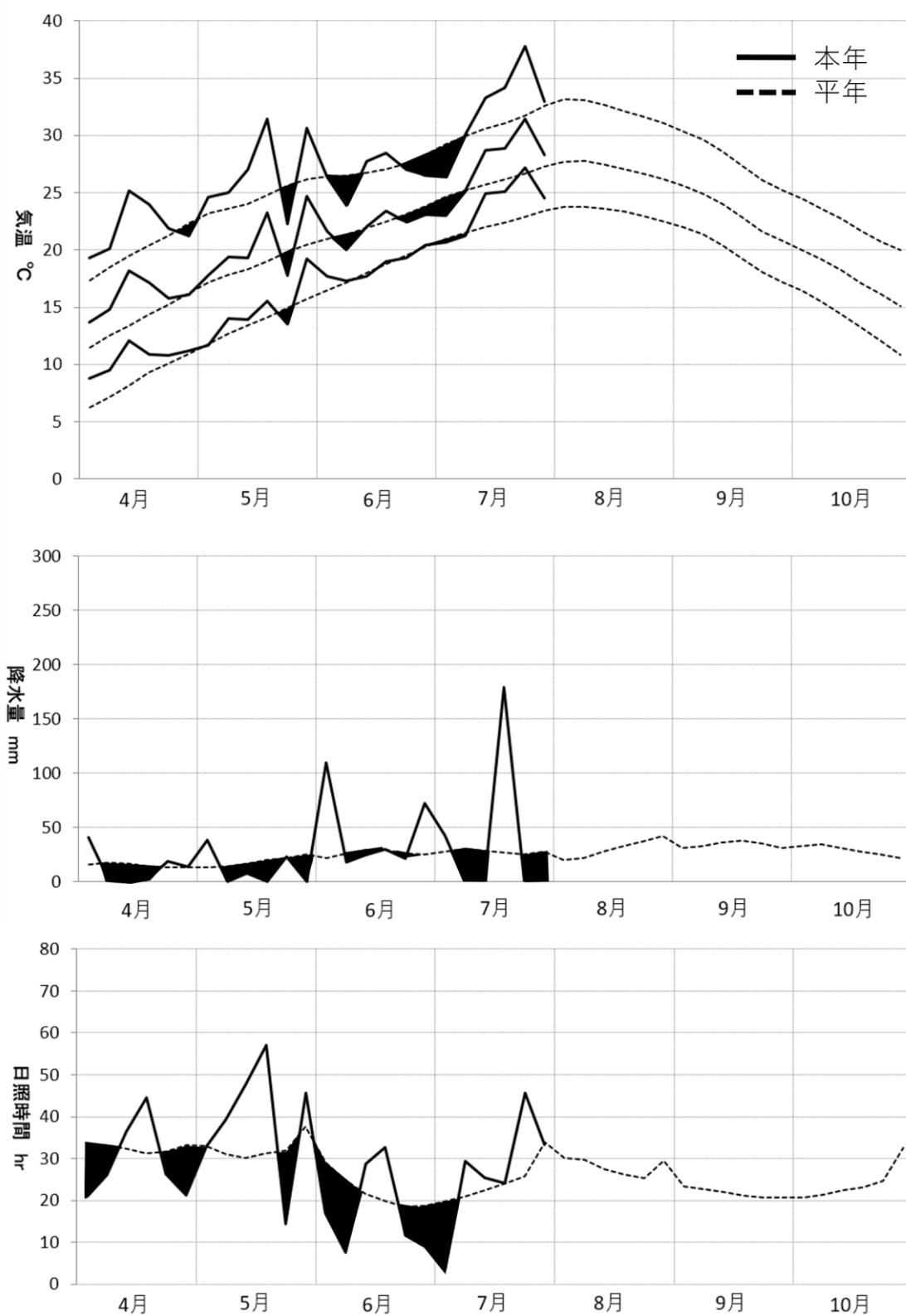
（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
20	38.2	37.9	101	16.0	13.9	115	8.4	8.3	0.1	72.3	74.7	97
30	60.2	55.7	108	26.1	24.8	105	10.4	10.4	0.0	326.2	322.2	101

注) 平年値は平成27年～令和7年の平均。 平年比は%

（2）生育経過





令和8年夏作期間気象図
(熊谷气象台日別測定値から作成)